Ecoフレンズ
VOL.21
【発行】平成21年4月
富山県鑿井協会
〒930-0992 富山市新庄町一丁目十九番二号
☎(〇七六)四四一-四二五七
Fax(〇七六)四四一-四二八七
http//:www.atw.ne.jp/~tomisaku/
E-mail : tomisaku@atw.ne.jp

『井戸の日』
記念フォーラム２００８開催報告

２００８年（平成２０年）１１月１０日に石川県地場産業振興センター（金沢市）において『井戸の日』記念フォーラム２００８～水が育む人と環境～が井戸の日実行委員会【(社)全国さく井協会北陸支部・北國新聞社】主催、６社のブースと４８社の協賛会社団体の協力により開催されました。

当日、４階１０研究室の展示ブースには環境にやさしい井戸づくりとして、洗練された技術と開発研究された各社の新製品が紹介されました。また、基調講演ではプロスキーヤー三浦豪太氏を迎え、パネルディスカッション、井戸１１０番・聞き水チャレンジコーナー等が実施され、２５０名を超す方々が来場されました。

基調講演

- 演　題：『エベレストから見た地球』
- 講　師：プロスキーヤー
  三浦　豪太氏

パネルディスカッション

- テーマ：『地球温暖化と水環境』
- パネリスト
  三浦　豪太氏（プロスキーヤー）
  齊藤　健一氏（石川県農林水産部森林管理課　担当課長）
  寅松　茂樹氏（石川県能登町商工観光課　海洋深層水対策次長）
  川合　勝二氏（(財) 北陸保険衛生研究総務ｸﾞﾙｰﾌﾟ　ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ）
  原田　芳朗氏（(社)全国さく井協会　近畿支部支部長）
- コーディネーター
  (社)全国さく井協会　北陸支部

富山県鑿井協会　技術講習会・懇親会

～講演される金厚氏（橘の間にて）～

平成２０年１１月２８日（金）午後３時より富山第一ホテルにおいて技術講習会が開催されました。

㈱ビーイング金沢営業所の田中真純氏より積算ソフト「ガイア」の実演、午後４時からの『しごと談義』では富山県観光・地域振興局の金厚伴行氏より富山県の大きな魅力の一つである「水辺を活かしたまちづくりについて」の講演がありました。

また、技術講習会終了後には懇親会が開催され、会員・賛助会員ら総数２１名の参加があり親睦を深めました。

水にまつわる話

目に見える以上の水
～仮想水とは何か？～

グルンドフォスポンプ㈱
師岡　慎　氏

仮想水とは生産物またはサービスの生産に必要な水の量と定義されます。

日本は水を完全自給できているように思われていますが、一方で多くの農産物を輸入しており、当然、それらを生産するのに水は欠かすことができません。

例えば、牛肉を例に見てみましょう。一般的に解体処理されたボンレス牛肉 200 kgを生産するには３年を要し、この間、ウシは飲用に２万 4000ℓ、世話用に 7000ℓ水を消費するといわれます。飼料（穀物 1300 kg、繊維飼料 7200 kg）も食べますから、その栽培・加工に必要な 15 万 3400ℓの水も必要です。これらを計算しますと、牛肉１kgには 922ℓの水が仮想水として使われていることになります。

仮想水という考え方は、１９９０年代初頭に、ロンドン大学のアンソニー・アラン教授によって提唱されました。以降、日本のように農産物の大半を輸入に頼っている国では、どうやって水資源を節約するか、自給率を向上させるかといった議論の際、欠かせない概念となってきました。東京大学の沖大幹助教授らは、日本の仮想水の総輸入量は年間約 640 億㎥と推計しており、これは国内の年間総水資源使用量にあたる約 900 億㎥の３分の２に相当することになります。ほとんどは牛肉や穀物の輸入元であるアメリカが占めていますが、世界経済の変化に伴い、中国や東南アジアへの依存度が年々上昇していることは周知の事実です。

仮想水の輸入量が高い国では、その恩恵を別の形で世界へ還元することが求められています。水資源開発のための技術提供や、利用可能な水を増やすためのＯＤＡなど、アプローチはさまざまです。そして、日本がその典型的な当該国であることはいうまでもありません。

～編集後記～

先日、１時間程でしたがお花見に行ってきました。天気もよく、そよ風が吹き、とても癒されました。

若い頃は「花より団子」でしたが、だんだん歳を重ねると“花を愛でる”という気持ち(?)が芽生え始めたような気がします。
お花見というのは、日本のすばらしい文化ですね。

～総務部会～

*環境にやさしい再生紙を使用しております。